

記 事

◎第5回理事会(昭.30.10.18) 出席者：藤井，種谷 両副会長，山本，星埜，後藤，河北，畠山の各理事，中川書記長，朝倉，袴箸，堀内の各主任書記。議事：1) 9月中の行事その他報告，2) 土木関係国際会議代表者推薦候補について，3) 委員会設置について，a) コンクリート示方書改訂委員会(コンクリート常置委員会を発展解消し本委員会を設置す)

委員長：吉田徳次郎 幹事長：園分正胤
 無筋コンクリート分科会：(主査)園分正胤，(委員)山田順治，三浦一郎，杉木六郎，森 茂，水野俊一，(幹事)樋口芳朗
 鉄筋コンクリート分科会：(主査)川口輝夫，(委員)田原保二，山田順治，猪股俊司，丸安隆和，松本嘉司，後藤幸正，神山 一，河野通之，(幹事)深谷俊明
 コンクリート道路分科会：(主査)谷藤正三，(委員)藤原 武，植原文弥，武田 宏，竹下春見，河北正治，(幹事)伊東茂富
 ダムコンクリート分科会：(主査)加野 正，(委員)村 幸雄，伊東茂富，伊藤和幸，吉越盛次，藤田博愛，野田和郎，細田和男，河原友純，水越達雄，村田清逸，(幹事)関 慎吾

b) 大阪駅沈下対策委員会

委員長：沼田政矩，委員：最上武雄，星埜 和，村山朝郎，森田紀元，三木五三郎，三笠正人，高坂榮朗，小田 仁，幹事：渡辺 隆，坂田四郎，三瀬 貞，松波哲夫，和仁達美，仁杉 巖

4) 土木会館建設委員会委員に金子 柁君を，大正以降土木史委員会およびコンクリート鉄道構造物委員会委員小田 仁君転勤のため後任として坂本貞雄君を委嘱する。5) 土木工学ハンドブック著者印税について，6) 研究費補助金に関する陳情書(下記)を建築学会と共同で提出することを決定。

昭和30年10月15日

文 部 大 臣 大 蔵 大 臣 日 本 学 術 会 議 会 長 建 設 大 臣	松村 謙三 一万田尚登 茅 誠 司 竹山祐太郎	} 殿
--	----------------------------------	-----

土木学会々長 菊 池 明

日本建築学会々長 武 藤 清

研究費補助金に関する陳情書

政府におかれては鋭意科学技術の振興に御尽力下さつておることに対して深く敬意を表するものであります。本会においては政府の御意図に即して夫々の研究者が所期の成果をあげるよう斡旋援助しておりますが，近年政局の関係から研究費補助金の交付が甚だしく遅れる傾向にあつて多くの研究者から研究計画にそごを来している苦衷を訴えて来られましたので本会においても実情を調査考究の結果これが是正解決のため下記の事項につき何分の善処方をお願い申上げたく茲に陳情に及ぶ次第であります。

記

1. 予算内示とともに予定の研究に着手できるよう補助金交付遅延の際は別途の融資方法を含めた何らかの法的措置を講じていただきたく。

2. 30年度は第二四半期を過ぎて補助金の交付される状態でありますために研究者が最も研究に専念できる夏季を逸したと補助金未交付によつて研究計画の遂行が頓座の己むなきに立到つたものもある実情であります。補助金交付を俟つて可及的に年度内計画の遂行には努力されるものとは信じますが，研究報告の提出または補助金経理を例年の通り律せられることがあつては却つて研究者の良心に逆かきしめる結果を招く惧れがありまますから，30年度においてはこの点を十分御勘考の上格別の善処方を御願ひ致したく。

- 7) 工業技術院長から日本工業標準調査会金属部会再生鋼材専門委員会委員(使用者代表)推薦方照会に対し園分正胤君を推薦すること。8) 朝日賞候補として上樞葉ダム建設工事と伊之浦橋架設工事を推薦することとし，畠山，河北両理事で資料を作成すること，9) 西部支部地区常議員穂積健茂君香川県土木部長に転出のため解任，坂田静雄君を後任に委嘱し，中国四国支部幹事長坂田静雄君福岡県河川課長に転出のため解任，剣持 力君(広島県港湾課長)を後任に委嘱することに決定，9) 昭和30年度土木賞委員会について，10) 会員入退会承認

◎各種委員会

1. 第5回会誌編集委員会(昭.30.10.24) 出席者：星埜，後藤正副委員長，荒井，成岡(代石原)両地方編集委員，三浦，針ヶ谷，林(泰)，長尾(代加藤)久保，菊池，岸，猪股，今野(代渡部)各委員。協議事項：1) 会誌および論文集進捗状況報告，2) 投稿論文および新規受付論文審査委員の決定，3) 依頼原稿の件，4) 学会誌編集方針の件，5) 新規講座に関する件，6) 40巻12号登載論文を次のとおり予定した。

春日屋伸昌：平均値法の3次元への拡張とその流量測定への応用，深谷俊明：3径間連続バリ橋の支承沈下が曲げモーメントに与える影響について，西村 昭：繰返荷重下の鋼構造物の寿命の推算法について，成岡昌夫，他2名：スラブ止め格子模型桁の実験的研究，岩井重久，他3名：砂層による溶解性物質の除去について。

2. 第5回学会誌編集小委員会(昭.30.10.10) 出席者：後藤副委員長，徳平編集幹事，岡本編集部員。協議事項：40巻11号会誌編集につき最終的打合せを行つた(64ページ)。

3. 第5回学会誌抄録委員会(昭.30.10.10) 出席者：左合委員長，山口，中村，嶋，久野の各委員，千

秋幹事, 徳平編集幹事, 岡本編集部員。協議事項: 1) 40 巻 11 号登載用として 6 編を予定(割当 8 ページ), 2) 繰越 20 編, 新規 3 編について協議, 3) 投稿抄録について取扱い方針を協議, 4) その他。

4. **コンクリート常置委員会**(昭.30.10.5) 出席者: 吉田委員長, 伊東, 川口, 国分, 後藤, 杉木, 谷藤, 畑野, 深谷, 三浦, 水野, 森, 山田, 猪股の各委員, 中川書記長, 捧箸主任。議事: 1) コンクリート示方書を昭和 24 年に改訂してから, すでに 6 年を経過した今日改訂すべき事項が相当あるので, この際常置委員会を発展解消して“コンクリート示方書改訂委員会”とし, 主査委員会で根本方針を確立しながら 4 分科会(無筋, 鉄筋, 道路, ダム)でそれぞれ原案を作製して, 拡大委員会で成案をうるようにする。2) 委員会の構成(理事会の項参照), 3) JIS のうちで必要なものだけ採用すること, 4) 大体 2 カ月間くらいで根本方針を決定することを目標とする。

5. **第 1 回コンクリート示方書改訂委員会主査委員会**(昭.30.10.24) 出席者: 吉田委員長, 国分, 川口, 谷藤, 畑野の各主査, 樋口, 深谷, 伊東, 関の各幹事, 中川書記長。協議事項: 1) 各分科の第 1 回分科会で協議した根本事項について各主査から説明の上それぞれ検討した。2) 委員追加(道路: 大野利幸, 岩間 滋, ダム: 水越達雄, 村田清逸), 3) 本文が根本であるから本文を決定してからのちに解説を完成すること。各分科会: 鉄筋コンクリート(昭.30.10.15), 無筋コンクリート(昭.30.10.20), コンクリート道路(昭.30.10.19), ダムコンクリート(昭.30.10.22), それぞれ第 1 回委員会を開催した。

6. **第 1 回編集企画委員会**(昭.30.10.12) 出席者: 星埜, 後藤正副委員長, 西畑, 竹下, 猪股, 大宮, 関, 林, 徳平の各委員, 中川書記長。議事: 1) 編集根本方針すなわち学会誌および論文集の性格について協議した結果, 2 本建として, 論文集は主として研究発表機関とし, 会誌は会員大多数の技術者に有益な工事報告, 設計資料, 抄録, 講座, ニュース等で充実するようにする, 2) 論文集は従来年 2 冊正員に配布していたがこれを年 4 冊以上として拡充する, そのため経費が増大するが, 次回までに考究すること, 3) 学会誌表紙の体裁を研究すること。

第 2 回委員会(昭.30.10.31) 出席者: 星埜, 後藤正副委員長, 左合学会誌抄録委員長, 竹下, 西畑, 大宮, 林, 猪股, 徳平の各委員, 中川書記長。議事: 1) 次の 3 案について検討した結果①はページ数が少なく満足できない, ②は論文集希望会員が 1000 名くらいでは一般会費からの補助額が多く健全な運営は困難, ③

案では正員と同様准員にも論文集希望者(+200 円とする)に配布するようにし, 会誌寄稿者の原稿料を増額し, また表紙を色刷とする等の経費を見込んで次回までに詳細立案のこと。

①現行予算範囲内で内容改善案
②現行のほかに論文集希望会員(200 円増)1000 名とし内容改善する案

③会費増額(正 1000, 准 700, 学 500)し内容を改善充実する案

2) 論文集を 64 ページ建とし年 6 回発行する方がよいとの意見もあつたが, 郵送料が増加するので次回までに研究, 3) 会誌のページ数配分について検討, 4) 原稿料の増額, 5) 表紙を少なくとも二色刷とする, 6) 表紙の体裁は次回までに各委員が案を持寄ること, 7) 論文集は論文審査委員会を別途設置する。8) 論文集には原稿料を支払わず別刷も実費徴収すること等について協議した。

7. **第 2 回海岸工学用語小委員会**(昭.30.10.20) 出席者: 肥後, 岸, 堀川の各委員。議事: 1) 堀川委員から関西側委員よりの連絡事項につき報告, 2) 各委員分担中疑問ある事項ならびに新妻, 浜田両委員の意見につき討議, 3) 海洋学関係の用語につき市栄委員の指導を仰ぐよう要望があつた。

8. **第 1 回地震工学万国会議に関する打合せ**(昭.30.10.25) 出席者: 星埜, 平井兩理事, 岡本, 田原, 友永(代菊池), 寺島(代大井上)の諸君, 中川書記長。議事: 1) 明年 6 月サンフランシスコ・バークレーのカリフォルニア大学で開催される地震工学に関する第 1 回万国会議について, いままでに行われた連絡状況について岡本舜三君から説明, なお 10 月 1 日付 J.E. Rinne 氏からの書簡により具体的計画が進められつつあるから土木としての論文提出案を協議した。2) 土木学会内に耐震工学委員会(Earthquake Engineering Committee, JSCE)を設置して将来の体制を整えるよう要望があつた。

◎講演会およびシンポジウム

1. **国際会議報告講演会**(昭.30.10.28, 合同庁舎農林省 7 階会議室において) 午前 10 時 20 分山本理事司会の下に講演会を開催し, まず藤井副会長の挨拶に次

写真—1 国際会議報告講演会における
藤井土木学会副会長の挨拶



いで下記各氏の有益な講演があつた。雨天のため最初聴講者の出足が悪かつたがだんだん増加し約100名となつた。

国際原子力平和利用会議について

資源調査会副会長 工博 安芸 皎一

第6回国際水理学会大会について

京都大学教授 工博 矢野 勝正

第5回国際ダム会議について

建設者河川局 開発課長 小池 誉

大ダム会議コンクリート国際小委員会について

東京大学教授 工博 国分 正胤

欧州におけるダムの設計および施工について

(スライド使用)

電力技術研究所 工博 畑野 正

以上の講演記録は第41巻第1号に登載する予定である。

2. 風に関するシンポジウム(昭.30.10.17~18)

日本気象学会ほか8学会(土木学会を含む)共催で気象研究所で開催し、研究発表(13編)、特別講演(3編)、シンポジウム等を行つた。

◎日本学術会議および関係各学協会記事

1. 日本学術会議 では10月25~27日第20回総会を開催し、各種報告および選挙制度改正案、日本学士院その他について審議した。また10月28日には国立博物館において原子力平和的利用国際会議報告講演会が開催された。

2. 日本工学会 では昭和30年10月5日臨時理事会を開催し、第7回工学会大会展示会案を修正し、この案によつて加茂会長が日刊工業新聞社に交渉することとした。

3. 都市不燃化同盟 では昭.30.10.1. わが国で例の少ない低工費鉄骨造校舎が完成したのでモデル校(目黒区八雲小学校分校を見学し、のち文部省試写室で講演会および映画を上映した。

◎その他

1. 研究依託 (国鉄施設局長から前年度に引続き10月10日付次の研究依託を受けた)

- 1) 大阪駅沈下対策として電気固結法その他の研究(委員会を設置して研究)
- 2) 溶接橋設計示方書の研究(継続)
- 3) コンクリート構造物基準の研究(継続)

支部だより

◎東北支部 第2回見学会(昭.30.10.8~9)玉川錦畑ダムを見学することとし、生保内線神代駅前に集合した参加者は58名、有意義な結果を得た。幹事会(昭.30.10.25)出席者:宮本支部長以下12名、議事:1)第2回見学会報告、2)巡回映画会の日程の変更。

◎中部支部 第7回幹事会(昭.30.10.11)出席者:鈴木幹事長外10名、議事:1)役員の異動(石川県土木部長小林庄平氏副知事に昇格されたので後任土木部長吉田直茂氏に評議員を、静岡県土木部長仁科太郎氏転出のため後任庄司儀夫氏に評議員を依頼、岐阜県土木部計画課長上野実昭氏転出のため河川課長片岡武氏に幹事を依頼することに決定した、2)10月行事として支部年次大会開催について、11月行事として11月13日佐久間ダムの見学を挙げることを決定した。

年次大会(昭.30.10.22~23,富山市公会堂において)前日まで北陸特有の薄曇りの空も大会当日はからりと晴れた秋晴れて午前9時定刻には中部支部の会員約150名が集まり本部からは中川書記長を迎え盛大に大会が開催された。杉戸 清支部長の中共からの帰国談が生々しく講演され、ついで会務報告、講演に移り金沢大学西田義親氏、富山地方鉄道四十万小祐氏、北陸電力金岩 明氏、富山県土木部鬼丸忠雄氏からそれぞれ貴重な講演が行われ会員一同の感銘を深くした。ついで立山、神通第一・第二発電所建設の映画を終了し、午後3時バス2台に分乗して常願寺川改修工事、魚津水族館を見学、夕暗追つて宇奈月に至り宇奈月館

写真-2 立山有料道路(中部支部)



図-1 立山付近略図

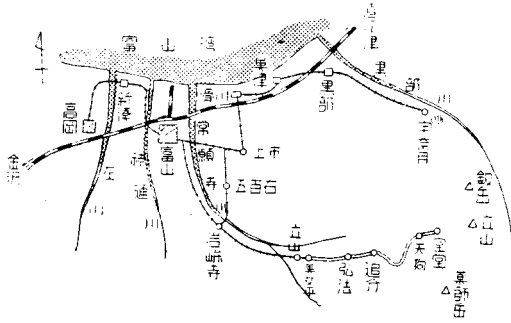
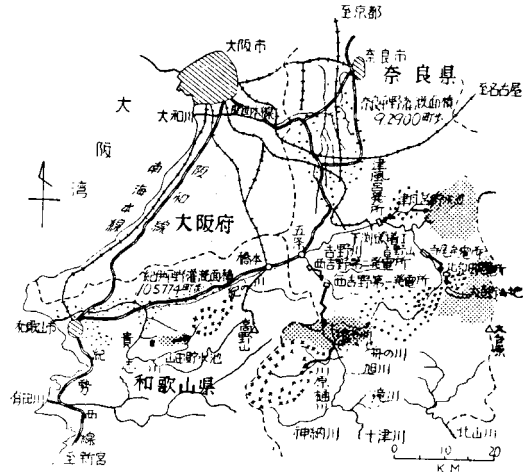


図-2 計画図 (関西支部)



にて懇談会を行い第2日を終つた。行程第2日目は午前9時電車にて宇奈月を出発、立山に至り立山有料道路を見学しつつ正午立山弘法小屋に到着、折悪しくガスがかかり眺望は悪かつたのであるが標高1600mの寒気を味わいつつ下山、富山駅にて午後4時解散した。

◎関西支部 見学会 (昭.30.10.24~25) 参加者：31名、見学先：イ) 近畿地建所管十津川利水工事猿谷ダム、ロ) 電源開発所管吉野第二発電所、ハ) 農林省所管大和平野導水トンネル工事、現地ではそれぞれ担当者の詳細な説明を受け参加者に多大の感銘を与えきわめて有意義に終了した。

◎西部支部 秋季見学会 (昭.30.10.14) 参加者：81

名、見学先：八幡市黒崎三菱セメント黒崎工場、行程：午前10時30分全員黒崎駅前集合、11時~12時同工場会議室において同工場工務課長寺田良一氏(欧米のセメント製法の視察を終え最近帰任)の湿式によるセメント製法を説明し、あわせて欧米におけるセメント製法の現況を講演、13時~14時工場内見学、14時30分~15時会議室で同課長と質疑応答、15時30分黒崎駅前において解散した。

昭和30年10月分入退会報告 (昭.30.10.1~10.31)

1. 入会 152名 (賛助 14, 特3級 2, 正 34, 准 33, 学生 69)
2. 退会 29名 (名誉 1, 特1級 1, 正 9, 准 16, 学生 2)
3. 転格 19名 (准から正へ 18, 学生から准へ 1)

会 員 現 在 数 (昭. 30.10.31 現在)

名誉員	賛助員	特別員	1級	2級	3級	正員	准員	学生員	合計	増加
19	30		31	78	151	5521	6874	1349	14049	123

昭和30年11月10日印刷
 昭和30年11月15日発行
 編集兼発行者 東京都千代田区大手町2丁目4番地 中川一美
 印刷者 東京都港区赤坂溜池5番地 大沼正吉
 印刷所 東京都港区赤坂溜池5番地 株式会社技報堂
 東京中央郵便局区内 千代田区大手町2丁目4番地 電話和田倉(20) 3945番
 4078番
 発行所 社団法人 土木学会 振替東京16828番